

、きくなっている。



取材/武田 宏 文/清水 洋一 撮影/木内 博

### 理事長/総長の人事 国がやっと本気になって決めた

と本気になったか」と囁いた人事だ。 内実を知る医療関係者が、「国が、やっ 光氏を迎えた。がん政策や同センターの ンター) は新しい理事長/総長に堀田知 ん研究センター(以下、国立がん研究セ 2012年4月、独立行政法人国立が

るいは人選チームが、慧眼の誉れを自覚 **擢の期待に見事に応えて見せてきた。** 2006年の名古屋医療センター院長就 意あるお申し出をお受けすることにしま 感じましたから。しかし、最終的には誠 しました。適任者は私ではないだろうと し、少し胸を張る姿が目に浮かぶ。 田氏に白羽の矢を立てた人選責任者、 て彼は、見識と手腕を存分に発揮し、 任も周囲が刮目する異例の大抜擢。そし 2002年の東海大学医学部長就任も 打診をいただいて、何度か辞退 あ 堀 抜

け取ることもできるだろう。 しての単身赴任を、静かな決意表明と受 なった国や国民の皆さんへの、最後のご ションであることは確かです。お世話に 奉公をするつもりで取り組んでいます」 ん。けれども、医療者冥利に尽きるミッ 家族を名古屋に残し官舎住まいを覚悟 荷が勝つとの思いは、今も変わりませ

## がん医療に貢献などできない プライドだけを振りまわしても

国立がん研究センターが直面する課題

ことを励行してもらえれば、10年後、20 そこから始まっていたのだな」と合点の 必ず「ああ、日本の医療の大変革は、あ 脳裏に刻んでほしい。定期的に振り返る 年にがん対策基本法が施行された事実を いく日がくるはずだ。 について。読者諸氏にはまず、2007 あるいは50年後かもしれないが、

他の疾患がつづき、いつしか日本の医療 患者の意見が反映されることも定められ 務が課され、がんに関する医療政策に、 差のないよう努力する「均てん化」の責 政策の大きな地殻変動が起こる。 んが切り拓く患者参加型の施策構築に、 の医療政策が新時代に突入したのだ。が た。つまり、他の疾患に先駆けて、がん 医療を享受する権利を明示した法律であ それほどの大事件が現在進行している がん対策基本法は、がん患者が適切な 医療を提供する側に、医療に地域格

との前提に立てば、旧態依然できた国立 がん研究センターの立場の危うさがわか ってくる。

立行政法人化)は、今や時代に取り残さ ら17年後の十分な「昔」に設置された、 立」を招きつつある。 センターとして誕生し、 関(厚生省所管の施設等機関の国立がん 当時、国内唯一最高峰のがん研究診療機 のメンタリティが「孤高」を高じた「孤 っていても集まってくるとの中央集権型 れかねないのだ。情報も技術も患者も黙 1962年、 つまり太平洋戦争終結か 2010年に独

療に実績を持つ医療機関も、国内にいく つもある時代。自称最高峰の組織がプラ 「気づけばがんの専門研究機関もがん診



るべき時が到来しているのです」 療に貢献などできないと考えをあらため イドだけを振りまわしていても、 がん医

### 研究を積極的に展開 がん患者の社会的立場に関する

味に、重要な解釈を示す。 宣言した。そして「中核的な役割」の意 て中核的な役割を果たしていくべき」と と検診、さらにがん医療政策提言におい ・が我が国のがん医療と研究、がん予防 就任に際して、「国立がん研究センタ

様めざします。研究機関ですから。 同義でした。ある意味、内向とも言える 役割』は、 「これまで当センターでは、 『当センターだけの業績』はこれまで同 『当センターだけの業績』と 『中核的

しかし一方で、外に向けた情報発信、

外部との協働プロジェクト、さらに言えれ、日本全体のがん医療の質の向上に資するあらゆる取り組みにも『中核的な役は、日本全体のがん医療の質の向上に資

「がん対策基本法の基本精神を読み解く対応している。医療を取り巻く環境変化に対し、的確に医療を取り巻く環境変化に対し、的確にを次々に繰り出す。まず、前述したがんを次々に繰り出す。まず、前述したがん

レーンを招聘し、取り組みを推進していいまでもなく、現代のがん医療には社会医学的な考察が求められています。当センターのがん対策情報センター内に、がん政策科学研究部とがんサバイバに、がん政策科学研究部を設け、外部からブレーンを招聘し、取り組みを推進していた。

ジした。悪しき意味で言えば、「がんのば、誰もが「がんの最新治療」をイメーー昔前まで、「がんセンター」と聞け

最新治療」しかできない、人体実験の場と理解している者さえいた。その時代の 同院の立ち位置に照らせば、激変と言え るだろう。「がんセンター」が、がん患 者の社会的立場に関する研究を展開して

「外」に向けた中核的役割は、がん対策推進協議会をはじめ、リーダー的役割を担う都道府県がん診療連携拠点病院連を担う都道府県がん診療連携拠点病院連を担う都道府県がん協)などとの連携や、大協議会(全がん協)などとの連携や、大

## 医療機器を創出するため日本発の革新的な医薬品・

素臨床研究センター(略称:NCC-E)がある。そんな創薬エキスパートの横の治験には、ほとんどなんらかのかかわの治験には、ほとんどなんらかのかかわの治験には、国内の血液領域の抗がん剤

POC)」を中心とした創 薬の話題にさしかかったと き、ひときわ生き生きと躍 動した。 「がん領域には、ドラッグ

一かん領域には、ドラックラグの話題が尽きません。ですがそういった取り組みは、海外で承認されているは、海外で承認されているもので、マイナスをゼロにもので、マイナスをゼロにもちろん患者さんにとっては、マイナスがゼロにな

理事長室には、南伸坊さんのイラストが(『わたしも、

んでした。』発行:日経BP社より)

世界初の新薬の創出です」
本の医療界にはゼロをプラスにすること
本の医療界にはゼロをプラスにすること

力に推進すべきに決まっています。日本発の革新的な医薬品・医療機器を創出するための「早期・探索的臨床試験拠点、そんなことは関係ありません。こんが、そんなことは関係ありません。こんが、そんなことは関係ありません。こんが、そんなことは関係ありません。こんが、そんなことは関係ありません。こんではらしいプロジェクトは、さらに強なすばらしいプロジェクトは、さらに強いです。

でいます。 現在、当センター内で動いている治験は100件以上ですが、早期・探索的臨は100件以上ですが、早期・探索的臨は100件以上ですが、早期・探索的臨

たのもとに届けたいものです」生。1日でも早く、苦しんでいる患者さ呼ばれる希少疾患や難治がんの新薬の誕呼ばれる希少疾患や難治がんの新薬の誕いる場合に届けたいのはアンメット・メデ

# 「顔の見える」 仕事ができるはず隔世の感はある。 でももっと

ら答えたらいいのか」となるのは道理だた。理由は、すぐに理解できた。がん医療においては、あまりにも薬剤師の活躍療においては、あまりにも薬剤師の活躍が顕著で必然の領域。空気の役割や大切が顕著で必然の領域。空気の役割や大切が顕著で必然の領域。空気の役割や大切が顕著で必然の領域。空気のは道理だめ、関係に関する質問を受け、薬剤師への期待に関する質問を受け、薬剤師への期待に関する質問を受け、



### 試験番号: EPOC1101 アカデミア発シーズ FIH試験 未承認薬臨床試験

薬剤:GBS-01 対象:膵がん フェーズ:FIH 進捗状況:試験終了 ゲムシタビン不応膵癌患者を対象としたGBS-01の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験

### 試験番号: EPOC1201 未承認薬医師主導治験

薬剤:TAS-102 対象:胃がん フェーズ:第Ⅱ相 進捗状況:登録終了 前治療で増悪した進行胃癌患者を対象としたTAS-102の第Ⅱ相臨床試験

### 試験番号:EPOC1202 未承認薬医師主導治験

薬剤:olaparib + eribulin 対象:乳がん フェーズ:第 I / II 相 進捗状況:募集中アンスラサイクリン系薬剤とタキサン系薬剤の治療歴を有するTriple negative typeの手術不能・再発乳がんに対するEribulin併用のOlaparib第 I / II 相臨床試験

### 試験番号: EPOC1203 未承認薬医師主導治験

薬剤:ペプチドカクテルワクチン 対象:小児固形がん フェーズ:第 I 相 進捗状況:募集中 難治性小児周形腫瘍患者を対象としたがんペプチドワクチンカクテル療法の第 I 相臨床試験

### 試験番号:EPOC1204 未承認薬医師主導治験アカデミア発シーズ

薬剤:GBS-01 対象:膵がん フェーズ:第Ⅱ相 進捗状況:募集中 ゲムシタビンとフッ化ピリミジン系抗癌剤不応膵癌患者を対象としたGBS-01の前期第Ⅲ相試験

### 試験番号:EPOC1205 アカデミア発シーズ

薬剤:sulfasalazine 対象:胃がん フェーズ:第 I 相 進捗状況:募集中 進行胃癌患者を対象としたスルファサラジンの第 I 相試験

### 試験番号:EPOC1301 未承認薬医師主導治験

薬剤:vandetanib 対象:肺がん フェーズ:第Ⅱ相 進捗状況:募集中

RET融合遺伝子を有する局所進行/転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象としたバンデタニブ (ZD6474) の第Ⅱ相試験 (LURFT試験)

### 試験番号:EPOC1302 医師主導治験 (Expand Access Program)

薬剤:regorafenib 対象:GIST フェーズ:- 進捗状況:募集中

イマチニブおよびスニチニブによる治療にて病勢進行が認められた消化管間質腫瘍 (GIST) 患者に対するregorafenibの安全性試験

### 試験番号:EPOC1303 未承認薬医師主導治験

薬剤:BKM120 対象:食道がん フェーズ:第Ⅱ相

前治療で増悪した進行食道癌患者を対象としたBKM120の第Ⅱ相臨床試験

日に大きくなっています。のプロとしての活躍にかかる期待は日にも薬剤師は欠かせない存在。唯一の、薬ません。そのチームで、病棟でも外来で「がん医療はチーム医療なくして成立し

当センターでは、病棟薬剤師が常駐していますし、薬剤師外来も開設しています。私も長いキャリアの中で、以前の調す。私も長いキャリアの中で、以前の調めのあるほどの活躍ぶりです」といったコメントを示してくれたそのといったコメントを示してくれたそのといったコメントを示してくれたそのといったコメントを示してくれたそのといったコメントを示しています。

うになっています。だからこそ感じるのて飛躍的に『顔の見える』仕事をするよ「というふうに、薬剤師は以前にくらべエールをつけ加えてくれた。

待をあわせ持っています」ります。私は、その点に大きな不満と期療界全体が前に進めない部分が確実にあ薬剤師がもう一歩前に出なければ、医

る』仕事ができるはずです。

が正直な感想です。

もっと、

『顔の見え

にいる。

「肩透かし」の心地良さが、

ない。もう一歩前に出てほしいというの

ですが、まだ、潜在能力を出し切れてい

## 実務には鋭利な切れ味を誠実で、穏やかで、それでいて

発端だった。堀田氏はごそごそと白衣の病院に入院中だったのが、回診の話題の班スタッフの友人が難治性のがんで中央にユー対応だとわかった。たまたま取材にカーがにだとわかった。なまたま取材にの病棟回診)をすませてからのインターの理事長回診(同敷地内にある中央病回の理事長回診(同敷地内にある中央病

がら話をつづけた。ポケットから取り出したメモを確かめな

擦れ」したこちらが肩透かしを食った感 すぎる」やり取りで幕を閉じた。「取材 報を伝えただけといった風情の、 氏は何も特別なことはしていないように れても良さそうなものだ。しかし、堀田 クトがある。もう少し、アピールしてく 自ら病棟に出向く事実には十分なインパ 医療研究センター)を率いる理事長が、 ったですよ。笑顔も出ていましたね」 「あの方は、<br />
今日はずいぶん具合が良 確信した。危機を感じた大組織が切り 理事長回診という言葉から、 心の中で小さくよろけてしまった。 ナショナルセンター (国立高度専門 パフォーマンスの匂いが、皆無であ 前述の場面は共通の知人の最新情 漂いがち 「簡潔

いう、成長で、急られで、たれでいてをわからせてくれたように思う。田知光氏に寄せた人々の期待の仕様諸元

してくれるはずだ。がん医療の新しい時代を確実にかたちに実務に鋭利な切れ味を見せる理事長が、この、誠実で、穏やかで、それでいて

### **PROFILE**

札として戴いたトップが、確かに目の前

(ほった・ともみつ)

1969年 名古屋大学医学部卒業 1970年 名古屋大学医学部第一内科入局 1984年 岐阜医療技術短期大学助教授 1986年 名古屋大学医学部第一内科助手 1990年 名古屋大学医学部第一内科講師 1996年 東海大学医学部内科学教授

2002年 東海大学医学部内

2006年 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター院長 2012年 独立行政法人国立がん研究センター理事長/総長

